

====このお便りは私が担当する太極拳教室の皆さんに毎月（今年度から8月も！）お届けしています。====

トピックス 全国大会成功裡に終る

さる7月2日（木）に開催された日本健康太極拳協会10周年記念全国大会は全国から6000名の参加者を得て盛大に行われました。これは日本での太極拳の大会としては過去最大規模ということです。また会場の東京体育館担当者の話でも観覧席が満杯になったのは東京オリンピック以来のことだそうです。詳しい内容は協会のホームページや会報などをご覧ください。右の写真は満場を感動させた、96歳を筆頭に80歳以上の方が238名による「不老拳」の演舞です。



【写真提供；石田勝男氏（国分寺市）】

左顧右盼～きこ・うべん～（29）【第4話 気と気功をどう理解するのか】

10) 「電気」と「電波」

前項で電磁波の話を書きましたところ、「電気（電流）」と「電波」の違いを聞かれました。今後の話の展開にも関係があることなので、ちょっと基本的なことだけ整理しておきます。

まず「電気」とは、原子の中の電子が自由に動き回ることから生じます。静電気と動電気に分類されますが、電気抵抗の少ない金属の導体などの中を「動電気」が一定方向に連続して流れるものを、ふつう「電流」と呼んでいます。一方、「電波」とは「光子」の流れのことです。大気中でもどこでも自由に流れることが出来ます。「電流」が流れるときには周囲に「電磁波」（電波と磁波）が発生しますので混同しがちですがあくまで違うものです。

「電気」のエネルギーは「運動、化学、熱、磁気、光、核」などの各エネルギーに双方向的に転換できます。たとえば、発電機を回せば「電気」が生まれ、逆に「電気」をモーターに流せば運動エネルギーに変わるといえます。また「電気」を電熱器に通せば「熱エネルギー」が得られますし、火力発電では逆に「熱エネルギー」を「電気」に変換しているわけです。このように「電気」は、ほんらい物質の原単位である「原子」の特性から生じる、人類にとって大変価値のある、利用しやすいエネルギーであると言えます。

生物内で発生し使われている「電気」を「生物電気」あるいは「生体電気」と呼んでいます。電気うなぎの例などが良く知られていますが、人間も脳、心臓、筋肉、神経などで生体電気を発して、情報伝達やその他の機能にたくみに使っているのです。このことはまたいずれ詳しくお話いたします。

旅をうたい拳を詠む

うず び
埋み火

——遠い記憶——

7月の終わりに満75歳の誕生日を迎えました。生れ落ちてよりすでに四分の三世紀の永い時間が流れたということです。薄れゆく遠い記憶のかけらを拾い集めて、いくつかの歌を作りました。きわめて個

人的な歌ではありますが、激動の時代を、一庶民としてそれぞれに生きた、いまは亡き父母ら肉親への鎮魂の歌として、また自分の幼い日を記憶にとどめる歌として、詠んだものです。

昭和9年7月北海道小樽市に生まれるも、父との別居を決めた母に連れられて姉とともにすぐ東京へ転出。

いっちゅうや
一昼夜船と汽車とを乗り継いで生後35日のわが初旅行
車窓からオムツ捨て捨て出て来たと母は語りき武勇伝のごと

東京市中野区で祖母、母、姉と暮らす。

物心つけば貧富は自明なり中野坂上裏長屋に居て
そのころもいじめはありき新しき本破かれし苦き思い出
なにゆえもまたそうじ
何故か百田宗治のお宅にて西遊記など読んでた不思議

百田宗治【1893～1955】；詩人、綴り方運動創始者、童謡「どこかで春が」の作詞者

昭和18年に姉が結核で逝く。東京が空襲されるようになる。

お下げ髪セーラー服が遺影なる姉の逝きしは^{よわい}齡十八
防空頭巾掠めて落ちし砲弾のかけらは大事なお守りとなり

昭和20年3月に強制疎開で杉並区大宮前に転居。8月に終戦を迎える。小学5年生の夏。

中野から杉並までを引越しの大八車を押して歩きし
久我山の畑に墜ちしB29に若き米兵の死体の哀れ
祖母と母と借家の部屋に正座して玉音聴きし夏の暑さよ

フィリッピン・セブ島で父が戦死したとの知らせが届く。

戦終わり平和戻れどわが家には訃報となりて父の帰りに来
セブ島に死したる父の骨箱を開ければ白き名札あるのみ

終戦後の、つらく、寒く、ひもじい思い出も今となればみな懐かしい。

米に換へる着物^{しよい}背負いたる母と行く富士見が丘の道遠かりき
冬寒の朝は教師の号令で“おしくらまんじゅう押されて泣くな”
ヤミ米を食わず餓死した裁判官は山口くん家の父さんだった
芋のつるかばちやコーリャン大豆かす進駐軍のチョコも懐かし
一升瓶で米搗くことも覚えてたりリンゴの歌に調子取りつつ

平成万葉集が発刊されました

7月中旬に「平成万葉集」（中央公論新社）が発刊されました。平成を生きる市井の歌人1000人の短歌1000首を編纂したものです。

私の入選歌“「蟹工船」がいままた読まれるニッポンの戦後はいったい何であったか”も無事掲載されました。本物の「万葉集」の、時代の厚み、詠み人の重層性とは比べれるよすがもありませんが、最高齢104歳！から最年少8歳！までの多彩な掲載歌から、おのずと日本の世相や人々の哀歓を読み取ることが出来ます。これはこれでやはり平成と言う時代を切り取った「万葉集」であると思います。

